



# 人生・農業 リセット再出発!

RESET RESET RESET 第4回



国際線航空会社乗務員・作家  
**黒木安馬**

「風樹の嘆」という言葉がある。親に孝行しようと思った時には、すでに親が死んでしまっていて孝行を尽くすことが出来ないという嘆きのことである。

高齢化社会である。際立って目に見えるわけではないが、ちよつとぐらゐ先輩だと思っていた周りの人たちが定年退職でどんどん辞めていく。年賀状を見ると知らないうちに物故者になった人も多い。まだまだと思っていた世界が、もうになってしまっている自分の立場に気づく昨今である。機内でも九十歳を過ぎて一人の世界旅行をしていると豪語する老人もいれば、まだ五十代前半であるのに車椅子を希望する老人?もいる。その理由がふるっている。高

齢の為とある!

我が家の娘が久しぶりに帰宅する度に私はフライトや講演ですれ違ひに出かける。そんなにゆつくり話す機会も無いのだからグレルわよ!と娘。ああ、そうかい、お前がグレルのだったら俺はボケてやるーと即答。

スイミング・スクール経営者の友人のところに八十を過ぎたお婆ちゃんが入門してきたそう。まあ感心ですわね、健康の為にですか? あら分かつてないんだねえ、この歳になればいつお迎えが来るか分からないでしょう、三途の川ぐらゐ自分の力で泳ぎたいのよ。おお、そりゃあ殊勝な心がけで。でしたら泳ぎを覚えたら次はターンの

仕方教えますよ!と言ったとか。きんさんぎんさんが以前TVのインタビューに答えていた。出演料はほとんどをボランティアに寄付されているそうですが、少しは貯金もされているのでしょうか? ああ……。貯金は何にお遣いで? 老後の為!

分子を自由に並べ替えて自然界には存在しなかった新しい金属などの物質を創り出す技術の、ナノ・テクノロジー(超微細技術)や、受精後間もない段階で取り出した細胞で身体のあらゆる組織に成長させる可能性を持ち、臓器移植や難病治療の救世主である万能細胞(E.S細胞)研究等が脚光を浴びている。租税回避地でいてクロールン規制法律も無いバハマでは、今年中にクロールン人間が誕生するらしい。それも日本人夫婦の子供である。ロンドンにフライトすれば狂牛病を始め新しい伝染病流行で大騒ぎ、バンコクでは地域によつては三十人に一人ではないかと言われているエイズ感染者は珍しくも無い。寿命が延びようが科学が進歩しようが、世の中の変遷はかまびすしいが、変わらぬものは人の心である。心の人生は芸術である。柳生但馬守は「我、人に勝つ道を知らず、我に勝つ道を知れり」と言っている。最も強く賢い人が一等賞を取るとは限らない。勝利を得るのは自分の能力を信じて絶えず努力をしている人。折角の人生、どうせ後で嘆くものなら、今直ぐにでも行動に移すが良い。自分の人生の主導権を握ろうではないか。平凡な生き方は止めよう。平凡さは驚のように本来は羽ばたけるはずなのに雀のように生きるようなもの。無いものを嘆くより、あるものに心から感謝したい、とは書家辻良樹さんの言葉である。

1950年熊本県生まれ。高校在学中にAFS奨学生で米国留学後、早稲田大学を経て航空会社に入社。業界の常識を破る「カラオケ・フライト」を企画して計7便飛ばし、後に北島三郎らによる「世界初1万メートル上空機上コンサート」も実現させる。自宅は28歳の時に1300坪の土地を開墾して2年半がかりでプールを手作りし、テニスコート、コンサートホールも造る。自宅ステージでは加藤登紀子、山下洋輪、坂田明、尾崎紀世彦など多くのライブやピカソ展を企画し、地域活性化触発運動「グループ・ザ・田舎のちあ」を主宰している。多くの実体験に基づいた人生成功哲学の講演や著書は大手企業でも人気を博して乗務の間をぬって全国を飛び回っている。著書に「面白くなくっちゃ人生じゃない!」(KKロングセラーズ)、「出過ぎる杭は打ちにくい」(ワニブックス)、「リセット人生再起動マニュアル」(ワニブックス)、「小説・球磨川」(ワニブックス上下巻)がある。E-mail: kuroki-yasuma@love.biglobe.ne.jp